

第17期報告書

平成25年4月1日 ▶ 平成26年3月31日

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日 3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会 毎年6月下旬
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース (みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店および全国各支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります。)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」 の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お 取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株 式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、 株式の振替手続を行っていただく必要があります。

公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL <http://www.irom-hd.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他やむを得ない事由が生じたときは、日本
経済新聞に掲載いたします。)

■ 株主様のご住所・お名前等に使用する文字に関してのご案内
株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会
社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等(いわゆる
「外字」)が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定し
た文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。
このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文
字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住
所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社
等にお問い合わせください。



I'ROM
HOLDINGS

Quality of Healthy Life

株式会社アイロムホールディングス

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-14-37
<http://www.irom-hd.co.jp>



株式会社アイロムホールディングス

証券コード：2372

株主の皆様へ

謹啓 平素より温かいご支援、お引き立てを賜り、心より御礼申し上げます。

私たちアイロムグループは、SMO（治験施設支援機関）業界におきまして、製薬業界及び医療機関のニーズやウォンツにこたえるため、治験の効率化・迅速化に加え多様な疾患領域へのきめ細かな高品質のサービスを提供しています。

アジア・オセアニア地域では各種業務提携を通じて、SMO/CRO（開発業務受託機関）サービスを包括的にパートナーである医療機関及び製薬企業に提供しています。また日本では企業主導型治験に加えて医師主導型治験の支援にも積極的に取り組んでいます。

クリニックモール開設・運営においては、患者様の利便を図り通院の負担を軽減する医療環境の提案をするとともに、医院・薬局などの新規開業のための診察圏の調査や物件紹介、事業計画の策定、医療機器の選定等を行い、より良いクリニックの開業を目指すドクターを強力にサポートしています。

先進医療の分野では、かつては難病と考えられ手の施しようもなかった数々の疾病についても説明が進み、画期的な治療法実現への道筋が見え始めています。当社グループもこの分野への進出を図るため、このほど細胞治療、再生医療等の先端医療技術を保有するディナベック(株)を子会社化しました。

アイロムグループは、再生医療や遺伝子治療などを含む医療テクノロジーの進歩を支えるとともに、これまで培ってきた事業インフラを活用してそれら先進医療の臨床試験を推進できる体制構築を進めており、これらを通じて各事業のシナジーを最大化することで企業価値の増大を目指します。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご高配を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

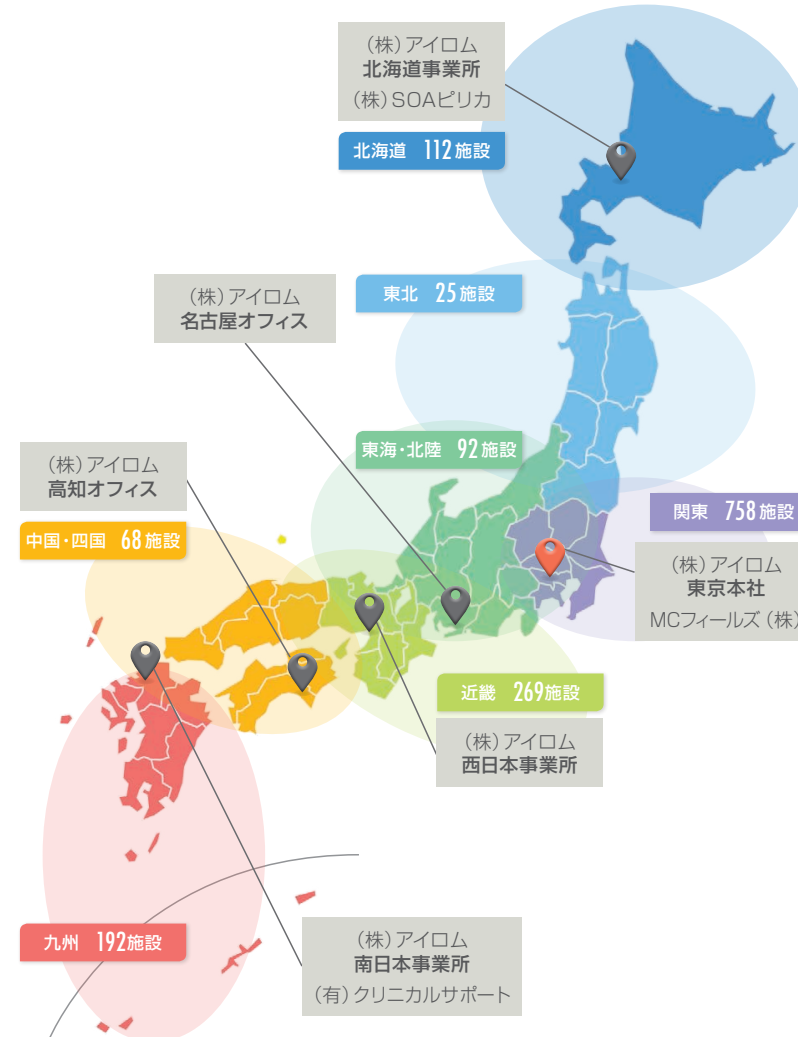
代表取締役社長 森 豊隆

アイロムグループは、SMO事業、CRO事業、メディカルサポート事業に先端医療事業を加えた4つの事業体を有し、そのグループシナジーを最大限に活用しながら、グループ理念に掲げる生活者のQOHL向上のため、次代の「統合医療」発展に貢献します。



SMO事業の国内展開

SMO事業における提携施設数は1,516施設に。



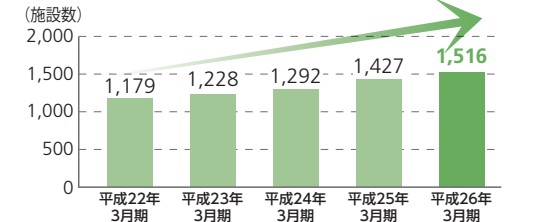
当社グループのSMOネットワークは(株)アイロムを中心に、九州に強固な基盤を持つ(有)クリニカルサポート、北海道の医師主導研究支援の先駆けである(株)SOAピリカ、東北地区での事業基盤と糖尿病領域に強みを持つMCフィールズ(株)の各社を子会社化することにより、さらなる拡大を続けております。引き続き国内においては積極的なM&Aを展開しており、今期は埼玉に事業基盤を持つ(有)エクセルを子会社化することを予定しております。

(有)クリニカルサポート プロフィール
所在地: 福岡県福岡市中央区天神一丁目1番1号
設立: 平成13年8月
資本金: 300万円

(株)SOAピリカ プロフィール
所在地: 北海道札幌市中央区北1条西2丁目2番地
設立: 平成18年10月11日
資本金: 500万円

MCフィールズ(株) プロフィール
所在地: 東京都千代田区富士見2丁目14番37号
設立: 平成16年5月28日
資本金: 1,500万円

提携施設数の推移

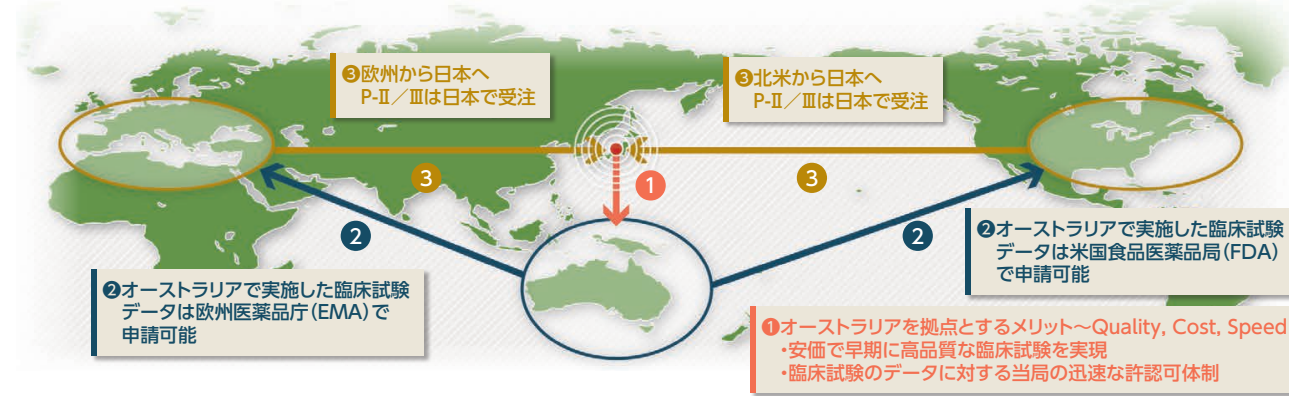


用語解説

SMO Site Management Organizationの略で、一般的に治験施設支援機関と言われ、治験を実施する医療機関と提携し、治験を実施するための院内体制整備および治験実務を支援する組織です。

アジア・オセアニアを拠点とするSMO/CROハイブリッド型サービスの提供

国内発新薬開発をアジア・オセアニア経由でグローバルに進めるとともに、グローバル企業との連携を加速。



アジア・オセアニアにおける提携先を選定中 ±2時間クロス十字エリアでの戦略的アライアンスを推進

国内市場		海外市場		
SMO事業 【グループ化】 (有)クリニカルサポート (九州地区) (株)SOAピリカ (北海道地区) MCフィールズ(株) (東北・関東・関西地区) (有)エクセル【手続中】 (関東地区)	CRO事業 【提携】 (株)メディクロス(東京) (株)IBERICA (京都)	先端医療事業* 【グループ化】 ディナベック(株) (つくば) 【提携】 iPSアカデミアジャパン(株) (株)メディネット	CRO事業 【提携、筆頭株主】 IDT Australia Ltd. (CRO) (オーストラリア、メルボルン) 【提携】 Info Kinetics Sdn. Bhd. (マレーシア)	SMO事業 (医療機関) 【提携、筆頭株主】 IDT Australia Ltd. (SMO) (オーストラリア、アデレード) 【提携】 Linear Clinical Research Ltd. (オーストラリア、パース)

※細胞工学に基づく細胞治療・再生医療事業、遺伝子医薬事業

オーストラリアでは、多くの疾患領域のFIH試験 (初めてヒトに投与する試験) やPOC試験 (新薬等の有効性を実証する試験) などの早期探索的臨床試験、国際共同治験 (アジアとの共同試験を含む) の実績が数多くあります。同国では臨床開発の開始までの審査承認プロセスが他国に比べて簡素化されており、たとえばFIH試験を早期に実施して、その後グローバル開発へ展開することが可能です。

(株)アイクロスは、今年度は国内製薬企業からの依頼により

オーストラリアにおけるFIH試験を開始するとともに治験薬GMP対応も併せて行い、国内で行うよりも医薬品開発に要する時間を短縮しています。また将来はグローバル企業との連携によるグローバル開発を予定しています。

今後は、特殊な難易度の高い臨床試験、アジア人種を含む国際共同PK試験 (薬物動態試験) やPOC試験などをアジア・オセアニアで実施することにより、グローバル開発支援の拠点として同地域を活用してまいります。

用語解説 CRO Contract Research Organizationの略で、一般的に医薬品開発業務受託機関と言われ、治験依頼者 (製薬企業) の治験に関わる業務の全部または一部を代行及び支援する企業を指します。
GMP Good Manufacturing Practiceの略で、医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準です。

新たな事業ドメインである先端医療事業へ進出

細胞治療・再生医療等の先端医療技術を保有するディナベック (株) をグループ化。

当社は平成26年1月1日にディナベック (株) を子会社としました。ディナベック (株) は、高性能かつ安全性の高いベクター技術を用いて、iPS細胞関連技術等を基盤とした細胞治療や再生医療および遺伝子ワクチン等の遺伝子医薬品の開発と事業化に取り組んでいます。

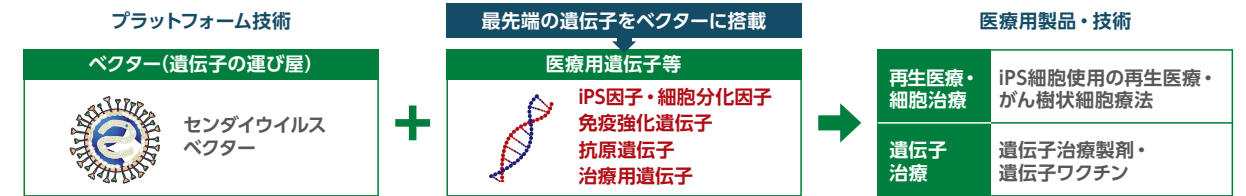
ディナベック (株) が当社グループの一員になることによって、当社グループが保有する国内外の医療ニーズに対処するノウハウ並びに医療機関、医師等とのネットワークと、ディナベック (株) の保有する最先端の医療技術等を結び付けて、細胞治療・再生医療等の臨床試験を一層加速させることが可能となると判断いたしました。

すなわち、医療ニーズを速やかに、かつ的確にディナベック

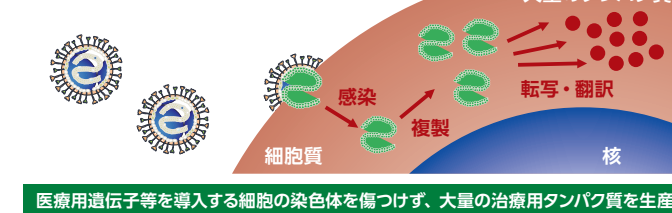
(株) の開発に反映させるとともに、当社グループの提携医療機関等を通じ、臨床研究/臨床試験に関する業務支援を行うことで、ディナベック (株) の各種プロジェクトの成果をいち早く患者様に提供してまいります。

再生医療の分野ではこれまで、治療効果が見込まれなかった難治性疾患に対し治療の可能性が開けるなど、世界的にも高い期待が寄せられています。当社グループの強みであるアジア・オセアニア地域における高度専門医療機関及び臨床研究/臨床試験関連企業等とのアライアンスを活用しながら、海外でもディナベック (株) の技術開発を推進することで、新たな治療分野の発展に貢献してまいります。

〈センダイウイルスベクターに医療用遺伝子等を搭載することで医療用製品・技術を創出〉



患者様の疾患部位の細胞



特長	顧客価値
遺伝子が細胞質に局在し、核に入らない	安全性が高い
哺乳動物細胞全般に感染	ヒトなど多様な細胞に使える
タンパク質の大量生産が可能	遺伝子の効果を最大限に発揮
タンパク質の生産量を選べる	
細胞から除去が可能	安全で性質の揃った細胞作製
主要各国で特許成立	強いパテントポジション

用語解説 ベクター 治療用の遺伝子等の有用な遺伝子を特定の臓器・組織に運搬し、効果的に標的細胞内へ導入する働きを持つ物質です。その中でも、ディナベック (株) が独自に開発した「センダイウイルスベクター」は、従来のベクターとは全く概念が異なり、動物実験や臨床研究により高い安全性が確認されており、さらに遺伝子医薬品やバイオ製品分野での利用に高い信頼性と実績を有しております。また他ベクターと比較し、遺伝子導入効率、遺伝子発現レベルが世界最高水準であることが広く知られています。

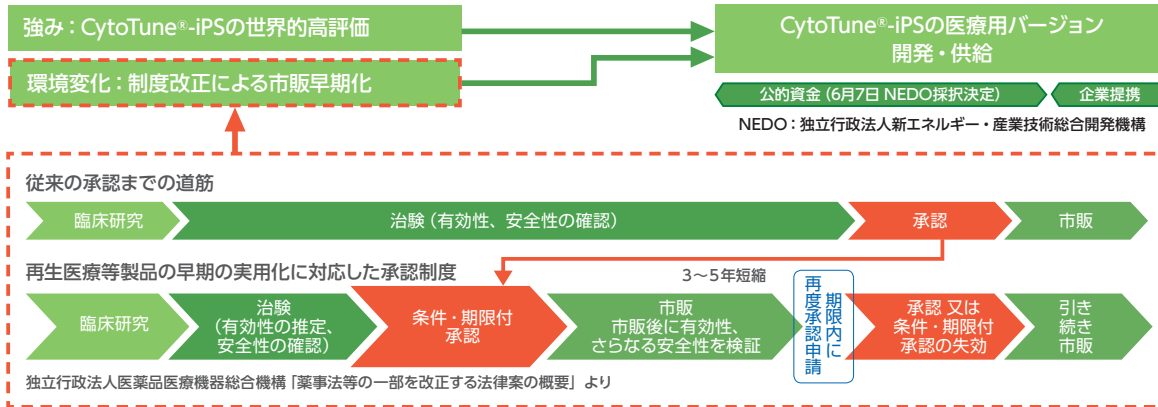
iPS細胞を用いた再生医療の早期実用化

研究試薬から医療用ベクターの開発へ。

〈世界最高の細胞初期化・分化技術を保有〉



〈細胞初期化技術を研究用から医療向けにグレードアップ中〉



ディナベック(株)は独自のベクター(細胞への遺伝子の運び屋)とその関連技術により、先端医療への取り組みを強めています。ディナベック(株)は現在、iPS細胞(人工多能性幹細胞)を世界トップクラスの効率で作製できる研究用キットをグローバルに販売しています。このキットは細胞の遺伝子を無傷に維持する特長も持ち、世界中の研究者から高い評価を得ています。iPS細胞は様々な分化細胞に誘導されて基礎研究や創薬に利用されており、近くそのようにして得られた医療用の分化細胞が

再生医療にも応用されようとしています。

すなわち、先端医療の分野では医療用のiPS細胞を作製するための技術・設備を早期に提供することが求められています。日本政府は再生医療の開発期間を短縮する法整備等の支援体制を整えており、再生医療等製品の早期実用化に対応して新たな承認制度が導入されようとしている中で、ディナベック(株)はこのほど公的資金を得て医療用CytoTune®-iPSの開発に着手しました。

用語解説 **iPS細胞** induced pluripotent stem cell (人工多能性幹細胞)であり、体細胞に特定遺伝子を導入することにより樹立される幹細胞のことで、ヒト等の動物のあらゆる組織、細胞に分化する能力を持っています。ディナベック(株)では、センダイウイルスベクターを使ったiPS細胞作製キットを全世界に販売している他、センダイウイルスベクターを使って得られたiPS細胞から創薬支援、細胞・再生医療に重要な各種分化細胞を作製することに成功しております。

先端ワクチン技術で難病に挑戦

国際的なエイズワクチン開発推進機関とともに、予防ワクチンを欧州・アフリカで臨床開発中。免疫の「司令塔」である樹状細胞を増幅し癌を治療する技術を国内企業にライセンス。

〈エイズ予防ワクチンの開発状況〉

2013年4月 第I相臨床試験を開始

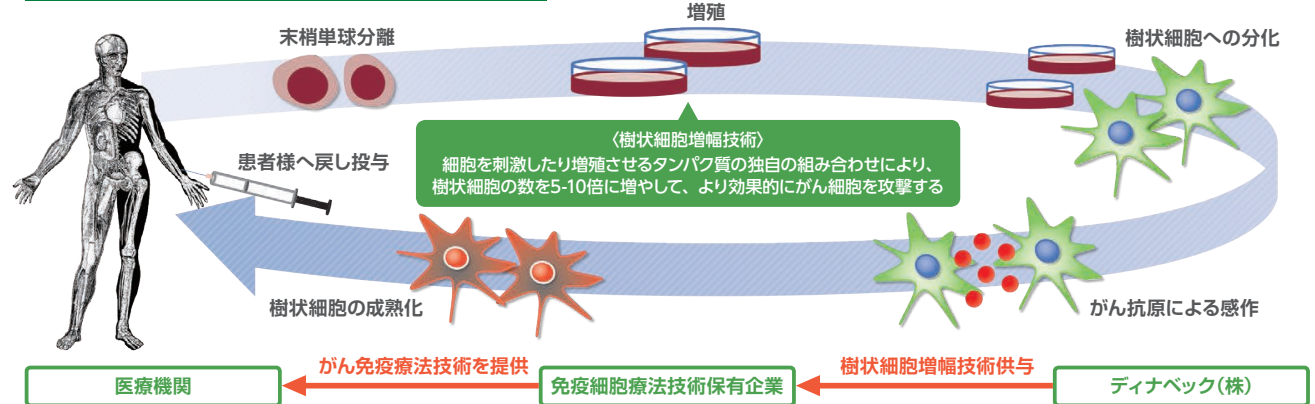
当初予定した64名の登録及び初回投与完了。現在まで安全性に関して重篤な副作用は報告されていない。



エイズは依然として人類の大きな脅威です。ディナベック(株)は、日本政府をはじめとした各国政府、世界銀行、ビル・ゲイツ財団等から支援されている「国際エイズワクチン推進構想」と共同で、自社ベクターを使ったエイズ予防ワクチンの第I相臨床試験を英国、ケニア、ルワンダで実施しています。64名の被験者への投与が完了していますが、安全性に関して重篤な副作用は報告されていません。

〈がん免疫細胞療法に関わる増幅技術導出〉

がん樹状細胞ワクチン療法 (がん免疫細胞療法の一つ)



がん樹状細胞ワクチン療法は、患者様自身の樹状細胞(Dendritic Cell=DC)を使用するがん免疫療法です。樹状細胞は血流に乗って全身を回りながらがん細胞などの異物を発見すると異物が提示する非自己分子により活性化され、患者様の免疫機能を亢進する免疫の司令塔の役割を持っています。患者様の末梢血から分離した単球を樹状細胞に分化させ、患者様のがん細胞から抽出したがん抗原や合成したがん抗原を取り込ませた上で患者

様の体内に戻してがんを治す治療法を、がん樹状細胞ワクチン療法と言います。

従来の技術では、樹状細胞を増殖させることが難しい細胞であり、また、患者様によってはがん樹状細胞ワクチン療法で治療に使うための十分な数の樹状細胞を確保することが困難なケースもあるのが現状です。これに対し、ディナベック(株)は樹状細胞を増殖させる新しい方法を開発して、この課題を克服できると考えています。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成25年3月31日現在 第16期	平成26年3月31日現在 第17期
資産の部		
流動資産	4,231	3,572
現金及び預金	1,926	1,592
売掛金	1,061	647
その他	1,259	1,355
貸倒引当金	△ 16	△ 23
固定資産	1,601	2,456
有形固定資産	874	550
建物及び構築物	465	342
土地	367	132
その他	41	75
無形固定資産	38	597
投資その他の資産	687	1,307
投資有価証券	181	562
長期貸付金	661	733
差入保証金	422	527
その他	399	356
貸倒引当金	△ 977	△ 872
資産合計	5,832	6,029

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	平成25年3月31日現在 第16期	平成26年3月31日現在 第17期
負債の部		
流動負債	1,348	1,003
買掛金	92	49
未払法人税等	93	14
前受金	517	508
預り金	240	221
その他	404	210
固定負債	462	539
負債合計	1,810	1,542
純資産の部		
株主資本	4,008	4,353
資本金	6,286	2,687
資本剰余金	7,577	646
利益剰余金	△ 9,855	1,026
自己株式	—	△ 6
その他の包括利益累計額	△ 0	76
新株予約権	13	16
少数株主持分	—	40
純資産合計	4,021	4,486
負債純資産合計	5,832	6,029

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで 第16期	平成25年4月 1 日から 平成26年3月31日まで 第17期
売上高	6,704	4,011
売上原価	4,602	2,941
売上総利益	2,102	1,070
販売費及び一般管理費	1,733	1,472
営業利益または営業損失(△)	369	△ 402
営業外収益	675	138
営業外費用	458	58
経常利益または経常損失(△)	587	△ 322
特別利益	1,216	56
特別損失	18	67
税金等調整前当期純利益または 税金等調整前当期純損失(△)	1,785	△ 334
法人税、住民税及び事業税	92	19
法人税等調整額	△ 58	△ 57
少数株主損益調整前当期純利益または 少数株主損益調整前当期純損失(△)	1,751	△ 296
少数株主損失(△)	—	△ 1
当期純利益または当期純損失(△)	1,751	△ 294

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

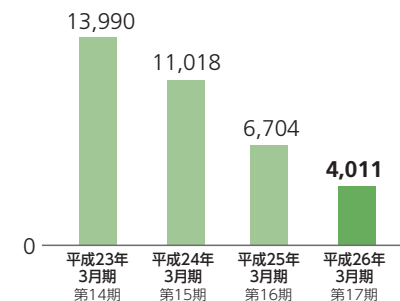
科 目	平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで 第16期	平成25年4月 1 日から 平成26年3月31日まで 第17期
1 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 625	△ 45
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	2,868	△ 421
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,175	26
現金及び現金同等物に係る換算差額	48	△ 38
現金及び現金同等物の増減額	1,115	△ 477
現金及び現金同等物の期首残高	803	1,922
連結の範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	4	—
株式交換に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	147
現金及び現金同等物の期末残高	1,922	1,592

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

- 1** 主な増加要因：売上債権の減少が475百万円、減価償却費の計上が76百万円等
主な減少要因：税金等調整前当期純損失の計上334百万円、法人税等の支払による減少135百万円、未払金の減少63百万円、仕入債務の減少44百万円等
- 2** 主な要因：貸付金の回収による収入381百万円、有形固定資産の売却による収入408百万円、貸付による支出570百万円、投資有価証券の取得による支出365百万円、差入保証金の差入による支出111百万円等
- 3** 主な要因：少数株主からの払込みによる収入40百万円等

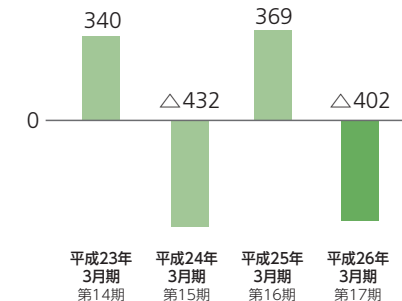
連結売上高

(単位：百万円)



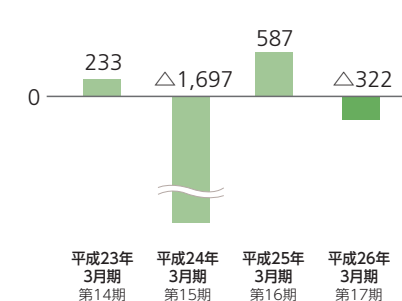
連結営業利益又は営業損失

(単位：百万円)



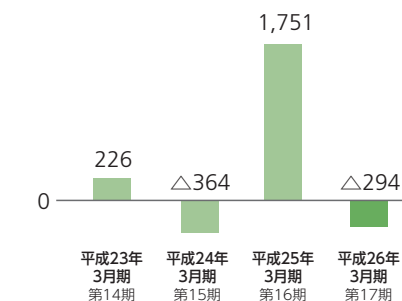
連結経常利益又は経常損失

(単位：百万円)



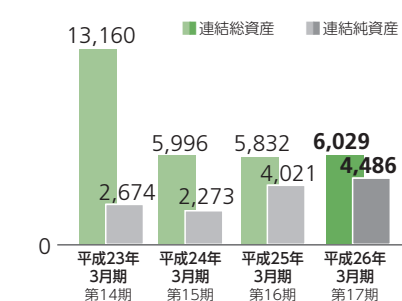
連結当期純利益又は当期純損失

(単位：百万円)



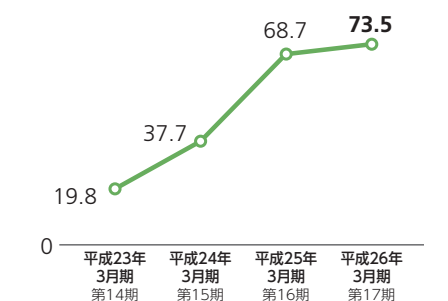
連結総資産／連結純資産

(単位：百万円)



自己資本比率

(単位：%)

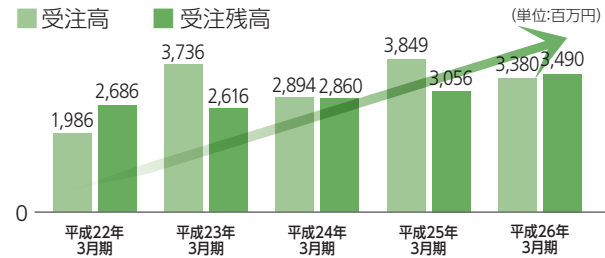
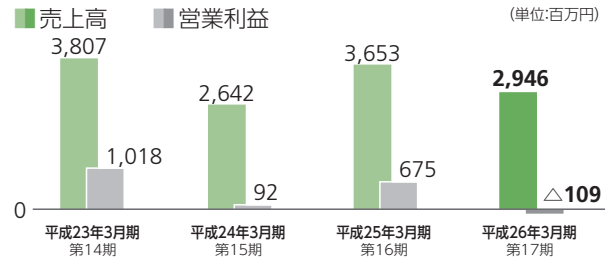


平成23年11月30日付で医薬品等の製造販売事業を担う連結子会社の全株式を譲渡いたしました。
平成24年12月1日付で医薬品等の販売事業を事業譲渡いたしました。

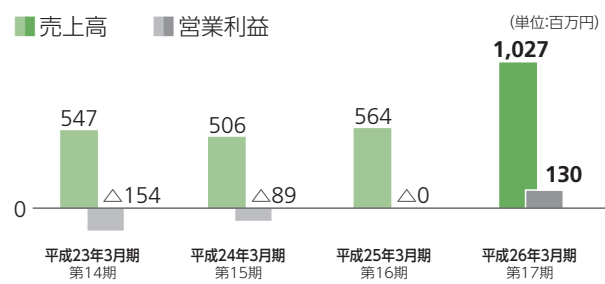
セグメント別の概況



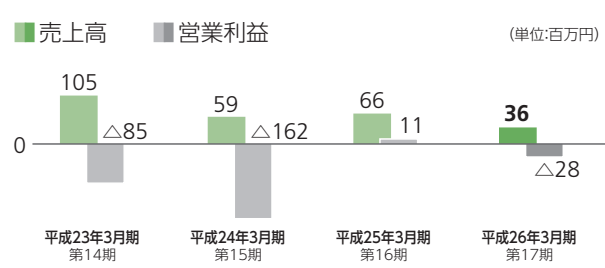
- ・プリファードベンダー指定による安定した受託により、特に整形外科、循環器科、内分泌代謝領域の受託が拡大
- ・グローバルジェネリックメーカーを中心にジェネリック医薬品開発の受託が増加
- ・早期国際共同臨床試験の支援、医師主導の臨床試験等の包括的な支援への対応
- ・受託を見込んでいた数件の大型案件が、治験依頼企業の開発スケジュール見直しにより延期となり、売上計画は未達成
- ・次期以降の事業拡大のためC R Cの増員



- ・業務改善による固定費削減
- ・既存クリニックモールの収益力向上
- ・当該事業を通じて培ったネットワークを活かした不動産投資が順調に推移



- ・CRO事業においてアジア・オセアニア地域での臨床試験のコンサルティング体制構築を進め、グローバル水準に対応したハイブリッド型サービスを追求



会社の状況 (平成26年3月31日現在)

会社概要

会社名 株式会社アイロムホールディングス
 設立年月日 1997年(平成9年)4月9日
 資本金 2,687百万円
 本社所在地 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-14-37
※平成26年7月14日に以下住所へ移転となります。
 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-102 飯田橋グラン・ブルーム6F

連結従業員数 308人
 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
 会計監査人 あらた監査法人
 連結子会社 株式会社アイロム
 株式会社アイクロス
 株式会社アイロムメディック
 ディナベック株式会社 (他10社)

経営体制 (平成26年6月27日現在)

代表取締役社長 森 豊隆
 取締役 犬飼 広明
 取締役 松島 正明
 取締役 加藤 親明
 取締役 谷田 洋平
 社外取締役 角台 利和
 社外監査役(常勤) 佐々木秀次
 社外監査役 尾田 友志
 社外監査役 森住 恵二

株式の状況

発行可能株式総数 37,281,680株
 発行済株式の総数 10,203,665株
 株主数 14,793名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
森 豊隆	4,754,250	46.62
森 利恵	825,000	8.09
長谷川 護	194,251	1.90
小林 令明	117,100	1.15
公益財団法人 加藤記念バイオサイエンス振興財団	76,950	0.75
森 龍介	75,000	0.74
山路 孟	66,000	0.65
背尾林二郎	56,720	0.56
須田 公平	48,700	0.48
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口3)	47,700	0.47

(注) 持株比率は、自己株式(6,675株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布

※比率は、各株主が所有する株式数の割合です。

